

# scene のつくりかた

how to make scene

## 牛島光太郎 展

USHIJIMA Koutarou Exhibition

2014年10月3日|金–10月19日|日 11:00–19:00 月曜日休廊 / 金曜日20:00まで / 最終日18:00まで

\*「ニューイ・ブランシュ KYOTO 2014」参加展覧会につき、イベント開催日にあたる10月4日[土]は23:00まで開廊。

2014.10.3 Fri.-10.19 Sun. 11:00-19:00 closed on Mon. / Fri. 11:00-20:00 / last day 11:00-18:00

### Gallery P A R C

GRAND MARBLE

牛島光太郎(1978年・福岡県生まれ)は、2003年に成安造形大学彫刻クラス研究生を修了以降、おもに『scene』と『意図的な偶然』のふたつのシリーズを軸に作品制作・発表を続けています。

大学在籍中にはおもに石彫作品の制作に取り組んできた牛島は、次第に「モノと文字(言葉)」による作品を展開させはじめ、2003年から『scene』と名付けられた一連のシリーズを進めます。この『scene』による一連のシリーズは、2003年よりscene-1、scene-2、scene-3……として連番により発表されてきましたが、2008年のscene-36の発表を最後に、2014年の京都芸術センターでの展覧会「イマジネーション・スーパーハイウェイ」でのscene-37・scene-38の発表までその制作は途切れていたものです。

牛島は『scene』において、「物語をつくる」という事を「強く意識しながら」も、意図的な物語の構築は避け、日常のとりとめない場面や出来事などを切り取り・繋げ、そこに「ある場面＝シーン」のようなものを浮かび上がらせます。

それらは「モノと言葉」(日常品や拾ったモノと、刺繍などによる言葉)によって構成されており、それぞれの要素は一見すると、まるでシュルレアリズムにおけるデペイズマン(意外な組み合わせ)のような、まったくの「無関係」であるようにも思えます。しかし、その作品を見るうちに鑑賞者はそれらが「いつか・どこかで交差する」かのような「予感」を覚え、出来事以上・物語未満の「それ」に、茫漠とした『scene(風景・光景・情景)』を見るのではないのでしょうか。

本展、「scene の つくりかた」は、2008年のscene-1に至るまでの間と、scene-36からscene-37までの約6年の期間を中心に、牛島が制作していた『scene』にまつわるいくつかの習作や試みを展示するもので、これらは「scene とは なにか」という結論を提示するものではなく、これまでを通じて牛島の自問に対する確認と検証を込めて計画されたものです。

約6年ぶりに『scene』に取り組む牛島にとって、本年の『scene』の制作は、そのつくり方を思い出したり、検証したりする作業となり、その作業の中で、「断片を集めて編集する」作業に改めて面白味と可能性を感じたといいます。

sceneの最新作となるscene-47、scene-48、scene-49とともに、マンガや小説を素材に、それぞれ「何か」を手がかりに繋ぎ合わされた平面作品、何気ないモノとモノに加えて言葉を繋ぎ合わせた作品、新聞や雑誌、映画のワンシーンなどを参照して描いた絵に異なる属性の言葉を合わせたドロ잉作品などは、いずれも「異なる要素」を「組み合わせる」点に着目して試みられたものであり、そこからは牛島の興味が一貫して何に向けられているかを垣間見れるとともに、牛島作品に通底する「はじまりも 終わりも ない 物語の 予感」が何によってもたらされ、それぞれにどのような『scene(風景・光景・情景)』を結んでいるのかを知る手がかりとなるのではないのでしょうか。

尚、牛島光太郎は本展開催期間に一部会期をあわせ、大阪・GALLERY wks.にて「scene-39 牛島光太郎展」を開催し、『scene』の最新作を発表しています。2つの展覧会を通じて、『scene』を予感させる最初期の作品から、その最新作をあわせてご覧いただけるこの機会をぜひお楽しみください。

### 牛島 光太郎 Ushijima Koutarou

私は「物語をつくる」という事を強く意識しながら、作品中に言葉を用いて作品を制作しています。

意図的な物語の構築は避け、その展開や結末などについては一切設定せず、日常生活の中で、私の中にとりとめなく浮かんでくる場面や風景、出来事などを切り取り、それらをつなげる。

このようにしてできた「物語(scene)」は、私が私自身を知る手がかりになり、また、私を取り巻く世界を知る手がかりにもなります。

この物語が、私だけでなく、私以外の誰かにとっても重要な意味を持つものになればと願っています。

2003年から作品タイトルをscene-1、scene-2、scene-3……というように統一して進めてきましたが、2008年に台湾の美術館で『scene-36』を発表したのを最後に、約6年間、『scene』の制作を離れていました。2014年に『scene-37』を制作、発表しました。

6年ぶりの『scene』の制作は、そのつくり方を思い出したり、検証したりする作業となり、この作業の中で、断片を集めて編集する作業に面白味と可能性を感じました。

本展、「scene の つくりかた」は、『scene』にまつわるいくつかの習作や試みを展示する展覧会です。

1978年福岡県生まれ。2001年成安造形大学彫刻クラス卒業。2003年同大学研究生修了。

主な個展

2005、2006 「scene」 GALLERY wks.(大阪)  
2010 「intentional accident / 意図的な偶然」 三菱地所アルティアム(福岡)  
2012 「intentional accident / 意図的な偶然」 LIXIL ギャラリー(東京)

主なグループ展

2005 「Art Court Frontier 2005#3」 ARTCOURT Gallery(大阪)  
2007 「Ich sehe was, was du nicht siehst」 Kuenstlerhaus Dortmund(ドイツ・ドルトムント市)  
2011 「おおさかカンヴァスプロジェクト」 関西国際空港(旅客ターミナルビル4F)に作品設置  
2012 「The A as A Project 2012China-Japan Contemporary Art Exhibition」 53美術館(中国・広州)  
2014 「イマジネーション・スーパーハイウェイ」 京都芸術センター(京都)

レジデンス

2007 Kuenstlerhaus Dortmund(ドイツ・ドルトムント市)  
2008 關渡美術館 Kuandu Museum of Fine Arts(台湾・台北市)  
2010 The association La Nature de l' Art(ニューカレドニア・ヌメア市)  
2012 Guangzhou 53 ART MUSEUM(広州・中国)

ワークショップ

2010 『意図的な偶然』のつくり方 ギャラリーアートリエ(福岡)  
2012 『他人の話』のつくり方 北九州演劇フェスティバル(福岡)  
2013 『意図的な偶然』のつくり方 豊中市文化芸術企画制作講座(大阪)  
2013 『他人の話』のつくり方 豊中市文化芸術企画制作講座(大阪)  
2014 ことばがかたちになるまで 福岡県立美術館コレクション展(福岡)

パブリックコレクション:『scene-35』、『scene-36』 關渡美術館 Kuandu Museum of Fine Arts(台湾・台北)

### 【構成作品】

ーマンガや小説を素材に、その断片をシーンやカタチに注目して組み合わせたもの、あるいはそれぞれ文脈の異なる断片を組み合わせたもの。(2008年)

ー何気ない日常品や拾ったものなど「モノの断片を組み合わせたもの」と、「言葉と言葉を組み合わせもの」を、会場で組み合わせたもの。(2014年)

ー布にシルクスクリーンによる言葉と糸による図像を合わせたもの。(2014年)

ー小さなスケッチブックに新聞や雑誌、映画のワンシーンなどを参照して描いた絵と異なる文脈の言葉を合わせたもの。(2013年)

ー《scene-47》(2014年) \* 畳部分窓側

ー《scene-48》(2014年) \* 畳部分内側

ー《scene-49》(2014年) \* 壁掛け作品

\* 牛島光太郎は、本展開催期間に一部会期をあわせ、大阪・GALLERY wks.にて『scene-39からscene-46』までの新作を発表しています。

「scene-39 牛島光太郎展」 2014年9月22日(月) - 10月11日(土) 12:00-19:00 日休/土曜・最終日は17:00時まで  
GALLERY wks.(〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満3-14-26 中之島ロイヤルハイツ1103)

scene のつくりかた